

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 綾瀬市保健福祉センター	階数	地上2階、地下1階
建設地	綾瀬市深谷中四丁目7番10号他	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	53 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,667 時間/年
建物用途	事務所・病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2015年8月24日
敷地面積	4,482 m ²	作成者	株式会社 佐野建築研究所
建築面積	1,984 m ²	確認日	2015年8月24日
延床面積	4,092 m ²	確認者	株式会社 佐野建築研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 福祉・介護・保健・医療が連携した拠点として、関連する機能を集約しワンストップで一括して市民のニーズに答えられる施設とした。また、乳幼児から高齢者までの幅広い世代及び障がい者の利用を考慮し、バリアフリー・ユニバーサルデザイン・防災に配慮した。		その他
Q1 室内環境 厚木基地の騒音対策として、外部サッシの防音性能を高めている。また室内は全体的に岩綿吸音板とするなど音環境に配慮している。空調は個別空調とし、細かな制御ができるようなシステムを採用した。	Q2 サービス性能 施設の中心となる1階エントランスホール空間や執務室はゆとりある天井高さを確保し、さらに中庭により自然採光を取り入れるなど、快適性の向上を図っている。また、緑化を施した屋外テラスなどのリフレッシュ空間も計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺のまちなみに配慮して、建物高さを抑え、外壁には築地塀風の意匠を採用している。建物の軒下に休憩ができるスペースを設けたり、建物内に自然光を取り込む中庭を設けるなど建物内外のアメニティ向上に努めている。
LR1 エネルギー シンプルな建物形状とすることで、建物外壁面積を押えるとともに、断熱材施工や2重サッシにより建物外皮性能を向上させ、熱負荷を抑制するとともに、設備システムの効率化をはかり省エネルギーに配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用や雨水利用をおこない水資源の有効活用に取り組んでいる。また、再生木ルーバーなどリサイクル建材の使用にも積極的に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 建物高さをできるだけ低く抑え、近隣への日照障害、圧迫感低減を図っている。また深い庇を建物外周に設け、ガラス面の太陽光反射による光害などにも配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される